

平成29年度 第2回 浦添市総合教育会議 議事録

1) 開催日時及び開催場所

開催日時 : 平成29年7月21日(金) 午前10時00分

開催場所 : 浦添市役所 1階 102・103会議室

2) 出席者氏名

浦添市長 松本 哲治

教育長 嵩元 盛兼

教育委員 胡宮 なりえ

教育委員 池田 博暁

教育委員 長田 隆子

教育委員 池間 生子

《事務局等》

市長部局

副市長 : 野口 広行、企画部長 : 下地 節於、こども政策室長 : 村山 みき

教育委員会事務局

教育部長 : 新垣 剛、教育総務課長 : 大城 博郎

3) 会議日程

1. 開会

2. 協議調整事項

(1)「浦添市立幼稚園の認定こども園移行に関する基本方針(案)」の承認について

3. 閉会

4) 議題に関する出席者の発言

○教育総務課長 (大城 博郎)

皆さん、こんにちは。総合教育会議の事務局をしております教育総務課の大城でございます。

本日は、第2回総合教育会議、場所を102会議室に移してとなりますが、これより会議の進行を市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○市長 (松本 哲治)

よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

早速ですが、会議を始める前に、傍聴希望者がたくさんいらっしゃっておりますので、原則は公開となっておりますので、総合教育会議運営要綱第5条の「会議の非公開」に該当する内容はないものと判断し、傍

聴を認めたいと存じます。よろしければ御承認いただけますでしょうか。

(は い)

○市長 (松本 哲治)

今、マスコミの方だけではなくて、仮に例えば傍聴とかそういった記録、録音、録画等があった場合には、どのようにいたしましょう。基本的に議会は、個人的にとっても、いろいろなものに使われても困るのですが、基本的にマスコミには許しているけれども、個人的なものは御遠慮いただいているというのが議会の流れではありますけれども、そういう形で準じてよろしいですか。

(は い)

○市長 (松本 哲治)

全部クローズすると、何と申しますか、密室になるので、でも、フロートにしても個人的にとられてもまた困りますので、そういった意味ではオープンにして、ひとつプライベートとパブリックという形で言えば、マスコミにだけ録音、録画等は許す、許可するという方向でよろしいでしょうか。

(は い)

○市長 (松本 哲治)

わかりました。それでは、そういう方向でよろしいでしょうか。

(は い)

○市長 (松本 哲治)

それでは、これから平成29年度第2回総合教育会議を開催しますけれども、開催に先立ち、本日は傍聴の方がたくさんおられますので、始める前に浦添市総合教育会議運営要綱第6条の各種事項を申し上げておきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

傍聴なさる方は、次に掲げる事項を守っていただきたいということですので、御協力のほどよろしくお願いいたします。まずは、みだりに傍聴席を離れないこと。そして2つ目、私語、談話、または拍手等はしないこと。そして、議事に批評を加え、または賛否を表明しないこと。飲食または喫煙をしないこと。その他、会議の妨害となるような挙動をしないこととなっておりますので、今回、この事項をお守りいただいて、傍聴をしていただきたいと申し上げておきたいと思っております。

また、後ろのほう、大分声が聞きにくいところもあると思っておりますので、ぜひ、どうぞ前に寄っていただいても結構ですので、我々もできるだけ、会話は大きめの声で、後ろの方まで届くような形で行ってまいりたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それではこれより、平成29年度第2回総合教育会議を開催させていただきます。進行は着席にて進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

改めまして、こんにちは。それでは、本日は前回の総合教育会議からの継続協議となっております「浦添市立幼稚園の認定こども園移行に関する基本方針(案)」について、協議してまいりたいと思っております。

その前に、前回の総合教育会議から、今日までの間、市の取り組みについて、まずは御報告をさせていただきます。

6月8日、仲西小学校体育館において「保護者・市民説明会」を持ちまして、約120名余りの参加があり、質疑応答、意見交換を行いました。また、基本方針に対する市民意見の募集、いわゆるパブリックコメント

を6月5日から26日までの期間実施し、多くの御意見を頂戴いたしました。97名の方から寄せられました意見の件数としましては、およそ250件となっております。

さらに去る7月9日には、仲西幼稚園で、公立幼稚園PTA連絡会主催の説明会において、保護者の方々と質疑応答、意見交換をいたしました。いずれの説明会においても、保護者の皆様から、来年の移行は急ぎ過ぎるのではないかと御意見等もありましたので、我々といたしましては、このことを真摯に受けとめて、今後も仲西地域の保護者説明会を重ねながら、保護者の御不満や質問に一つ一つ丁寧に説明、対応してまいりたいと考えているところです。

前回の総合教育会議や勉強会等で、委員の皆様から意見や質問を受け、また市民からの御意見等を踏まえて、基本方針（案）を訂正させていただきました。その協議に入る前に、改めて、委員の御意見や御質問を受けたいと思いますので、御質問がありましたらよろしくお願いたします。

○教育委員（長田 隆子）

市長。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（長田 隆子）

今回の仲西幼稚園の認定こども園の移行につきましては、パブリックコメントやら、先ほどの市長のお話の中にあるように、市民から急過ぎるとの声が上がっているようです。正直、私もそういう懸念は持っていました。これまで我々は何度か、勉強会におきまして、担当課、主管課から、来年度、認定こども園へ移行するに至った経緯の説明を受けていますが、市民にとりましては、6月7日に初めて公開説明を受けたわけですから、動揺もし、さまざまな不安を感じるのも当然かと思えます。そこで、市長に改めてお尋ねしたいのですが、このような市民の不安の声に、今後どのように対処していかれるか、お考えをお聞かせください。

○市長（松本 哲治）

はい。基本的に、前回行われました仲西小学校、また仲西幼稚園で行われた意見交換会等においても、やはり早急過ぎる、唐突過ぎるのではないかと御意見がありました。我々としては、我々も内部的にといいいますか、我々としては平成27年「第3次てだこ親子プラン」、またその翌年、平成28年に「アクションプラン」、重点項目等も議論してきた経緯もあります。平成30年度移行に向けて、これまでの基本方針というもの、内部でもいろいろ議論をしてきましたけれども、この前の説明会の印象を受けまして、市民にとって、あるいは担当者にとって、唐突な感じは否めないだろうと思っています。実際ここは、私としても非常に悩んだところではありますが、内部で、もちろん一般市民を交えた形ではないのですが、議論してきた過程も踏まえて、やはりここは急がなくてはならないのではないかと、私個人的には思っています。

今回のこの認定こども園にしていくということは、非常に唐突そうに見えますけれども、これは幼稚園を認定こども園に変えていくという一つの議論ではなくて、さまざまな子供たちが抱えている、さまざまな今の課題と非常に連動する大きな問題の中の一つだと捉えていますので、そういった全体的なことを勘案しますと、やはり今、一つの、例えば仲西幼稚園を認定こども園にするんだというここだけの話ではなくて、子供たちの教育環境、保育環境、全体を見きわめた上で、やはりもう待たなしの状態が来ていると考えてい

ます。ただ、全体の中で急がなければいけないと考えているけれども、当事者や、特にPTA関係者の皆様にとって、しっかりと進めていただきたい、あるいはどうなるのかわからないという不安があると思いますので、それについては、丁寧にその不安を払拭するように、あるいは皆さんが考えている懸念が現実化しないように、我々としても最善の対応をしていきたいと考えています。

○教育委員（長田 隆子）

市長、もう一度。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（長田 隆子）

認定こども園に移行するに当たって、やはり市民の理解を得るということは非常に重要なことだと思います。その市民の声として、認定こども園を待ち望む声も一部あると聞いていますし、また公立型ではあるけれども、市立幼稚園を認定こども園に移行するという署名もあったと聞いております。そういうことから、認定こども園自体はおおむね受け入れられているのかなという思いはありますけれども、市民の不安がどこにあるのか。やはりきちんと検証して、その不安が取り除かれるように、十分な周知期間を設けるという選択肢もあると思うのですが、そのような中で、次年度、仲西幼稚園を認定こども園に移行する理由について、再度、繰り返しになると思いますけれども、市長のお考えをお聞かせください。

○市長（松本 哲治）

はい。まず前段部分ですけれども、例えば、お子様を抱えている親御さんにしても、あるいはさまざまな保育、あるいは教育にかかわっている方々も、御意見はたくさんいろんな形があると思います。例えば、今の形がベストだと考えていらっしゃる方もいる。そうではなくて、やはり民間の力を使うべきだと考えている方もいる。あるいは今の幼稚園のままがいいと考えている人もいれば、やはり認定こども園という新しい制度を早く浦添に導入してもらいたいという声もある。そういったことをさまざま考えていくと、我々は、今、これまで大きく議論してきた中で、新しく認定こども園という概念が出てきているわけですから、国の方向としてその方向に流れている以上、我々としてはそこをしっかりと受けとめて、我々もその流れの中で、保育、教育のあり方というのを考えていきたいと思っています。

ただ、ちょっと早急過ぎるのではないかという議論もあるのですが、恐らく、市民の皆さんの中には、常に唐突感や早く変わっていく、変化していくことに対する不安は常にあると思います。しかしながら、よく考えてみると、認定こども園にしてもそうですし、公私連携型認定こども園にしても、全国で初めて浦添市がやるというわけではないのです。むしろ県内でも既に始まっているところがあるのです。ですから、そういった意味では、海のものとも山のものともどうなるかわからないようなものを、先陣を切って我々が今やるということではないのです。さまざまな県外、あるいは県内の先行事例等もしっかり踏まえた上で、起り得る想定できる課題、混乱については、我々もそれをきちんと準備をしていって対応していきたいと思っています。やはりトップバッター、最初にやる、最初に変わる人たちも不安というのは常につきまとうと思いますけれども、やはりそこをできるだけ、考えるリスク部分について私たちは準備していく、なおかつ、逆にメリットの部分もしっかりと皆さんと共有するような形で、市民の、特に御父兄の皆さんの理解をいただけるように、最善の努力をこれからもしていきたいと思っています。

○教育委員（長田 隆子）

ありがとうございます。市長のお話や、これまで受けた担当部署からの説明で、市の抱えている課題とか、必要性とか、そしてその取り組みに関する覚悟、市の覚悟、そういうものが理解できました。それが市民にしっかり伝わって、保護者が安心して子供を通わせることができるように、今後ともどんどん機会を設けて、説明責任を果たしていただきたいと思います。以上です。

○市長（松本 哲治）

ありがとうございます。今おっしゃっていただいたように、やはり我々としても、今までやってきた制度を、ある種、新しい制度の中で変えていくというときには、やはり我々も若干の不安だったり、うまくいかなかった場合の市民からの反発であったりということも懸念しているわけでありますけれども、だからと言って、何も変えていかないというのは、むしろ逆のデメリットもリスクも負っていくということを考えれば、できるだけリスクを小さくしながら、新しい方向に進んでいくんだということを、我々も議論を重ねた上で、決断を持って進んでいきたいと考えています。

ほかに何か御質問等。

○教育委員（池間 生子）

はい、市長。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（池間 生子）

先ほどからの説明なのですが、幼稚園から認定こども園に移行するというときに当たっては、園児たちの環境はとても大切だと考えています。その環境が大切という、この移行するというところで、今市長の言葉の中に「デメリット」、それから「メリット」というお言葉がありました。よりよくなっていくということに関しては、必要最低条件だと考えますが、実際そのことについて、市長はどのようにお考えか、お聞かせください。

○市長（松本 哲治）

はい。例えば今話題になっている仲西幼稚園が認定こども園化していくに当たって、やはり子供たちにとっても、大きな急激な変化というのがないにこしたことはないと思っています。ですから、そういった意味では、もちろんハード的なものは変わりません。同じ建物を使って同じものをやるということでもありますので、そこは問題ない。あと、先生方が、例えば3月と4月で全員総入れかえとなれば不安があると思います。ですから、我々としては、できるだけ、いろんな形があると思いますけれども、残っていただける先生方には、できるだけ継続してこちらで働いていけるような、そういったことも考慮していきたいと思っていますし、例えば、今までの市が直営で行っていた幼稚園から、新しい事業者といいますか、新しい実施者が内容を大きく変えることがあってはならないと、これも考えておりますので、そういった具体的なこともこれから市がきちんと運営側と話をしながら、親御さんにもそうですけれども、特に子供たちに大きな変化が伴って混乱を招くということがないように、それはもう万全に準備してまいりたいと考えています。

○教育委員（池間 生子）

よろしいですか。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（池間 生子）

これまでの説明の中とか、いろんな資料の中で、土曜保育の開始とか、それから4月1日からの受け入れも可能になりますとか、それから午前と午後の一貫した教育が行われるような形でとか、今市長のお言葉の中にもありましたが、継続を大切にしたいというお話とか、それから、それ以外にも特別支援という教育の配慮等も行いたいというコメントがありますが、そういうことは非常に大事なことだとは思いますが、その認定こども園をしっかりと運営していくためには、運営体制が確立、あるいは確保されないといけないと、これが前提になると思っています。特に仲西のほうで予定されている認定こども園の場合は、民間事業者が運営するということですので、そのあたり、選定の際の条件等もしっかりやっていただけたらなど、そのあたりがきちんとできることが大切なのではないかと考えています。

○市長（松本 哲治）

ありがとうございます。

今の御質問の前段部分、例えば今行われている預かり保育が、新しい事業者になってなくなってしまうのではないとか、今までの行事も全然違うものになるのではないか、そういったことを懸念されている方もいると思いますけれども、これは事業者にもきちんと話をして、しっかりと継続していく。むしろここを拡充するために、今回認定こども園化していきますので、例えば今だと午前の部分が教育で、午後が預かり保育、教育と保育で少し垣根がありますけれども、認定こども園にすると、もう全体が教育であり、全体が保育でありという一貫的なものになる。土曜保育にしてもこれから始まっていきます。今、幼稚園では土曜はお預かりしていないのですが、それがしっかりと土曜も広がっていく。さらに、例えば特別支援学級について、これは今、いろんなマンパワーの関係等もあって、5歳児しか、年長さんしかできていないのですが、基本的には認定こども園化することで、受け入れる学年といえますか、5歳であれば、4歳であれば、3歳であれば、特別支援教育も行われるということでもありますので、具体的な時間だったり、制度だったりというものは、むしろ縮小するのではなくて拡充すると考えていただきたいと思っています。

それからもう1点、後半の部分の、実際に行われる事業所はしっかりとした方が選定されるかどうかということですが、これも有識者、専門家の方を入れて、なおかつ、例えば仲西であれば、自分たちの子供たちがどんな組織に、あるいはどんな事業所に任せられるのかということ、これは非常に気にするところだと思いますので、ぜひともPTA関係者の中からも選考のプロセスに入っていただいて「ああ、こういう組織であれば自分たちも安心して子供たちを任せられるな」というところをしっかりと選んでいただきたいと考えています。

○教育委員（池間 生子）

ありがとうございました。いろいろな方向からの運営体制の確保ができることをよろしくお願ひしたいと思います。

○市長（松本 哲治）

はい。あらゆる御意見を頂戴しながら、専門家、また実際の親、あるいは実際に今、これまでかかわってきた仲西の幼稚園関係者、そういった方々も入れて、むしろ逆に認定こども園化することで、仲西の幼稚園

が、名前だけではなくて、質も内容もすごくバージョンアップするように、あるいはそれができるとような事業所の選定というものを、皆さんと一緒にやっていきたいと考えています。

○教育委員（池間 生子）

ありがとうございます。

○市長（松本 哲治）

ほかに何か。

○教育委員（池田 博暁）

はい、市長。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（池田 博暁）

今の意見と関連するところはありますけれども、私も説明会には2回ほど参加させていただきました。公私連携、いわゆる民営化については、大変大きな不安を持っているのがよくわかりました。果たしてその背景には、多分、公私連携では市の職員が参加しないといいますが、場合によっては配置されないということが大きな要因としてあるのかなと、今思っています。同時に、認定こども園の開所についても、しっかりと行政への目が行き届かないのではないかと、そういうことで、運営体制が脆弱なままに認定こども園、いわゆる民営化が進んでいくのではないかと、そういうことで大きな不安と懸念があるのかなと考えています。そういう点で、市長にお伺いしたいと思うのですが、いかがですか。

○市長（松本 哲治）

これは少し、やはり言葉のイメージと違いますか、そういった印象もあると思います。だから「民営認定こども園」と言うと、何か民間の業者に丸投げをしてしまうようなイメージですけども、正式名称はあくまでも「公私連携型認定こども園」、つまり、民間と我々公的な市役所とが連携をして、一緒にやっていくというイメージなんです。ですから、我々としては、例えば今回、認定こども園、仲西から公私連携型で始まったとしても、市としてはしっかりと関与して、きちんとした保育体制、あるいはきちんとした教育環境等が保障されている、あるいは担保されている、あるいはそれが実践されているということは、これからもむしろ、今の幼稚園以上に厳しく見てまいりたいと考えています。

○教育委員（長田 隆子）

そこが大事ですね。

○市長（松本 哲治）

特に民間に丸投げされて好き勝手にされてしまうのではないかと、懸念がある以上、我々としてはむしろ今のある公立幼稚園以上に、やはり厳しい目を持って、内容について、当然今の幼稚園よりも中身としてグレードアップするという前提で認定こども園としていきますので、そこはしっかりと、少し厳しい言い方ですけども、今の公立幼稚園よりも、むしろ厳しい目で、我々としてはかかわっていききたいと考えています。

○教育委員（池田 博暁）

市長、今市長の説明を受けて、非常に安心する部分もあったわけですが、運営体制を確立するとか、場合

によっては、いわゆるそのために何をするかということになるかと思うのですが、例えば、先ほど池間委員の質問にもありましたけれども、いわゆる運営条件はどうするかとか、場合によってはその運営条件をさらに細かく仕様書として作成するかということが求められてくるかと思うのですが、そういう意味で、その仕様書の内容をどのようにつくっていくかという部分が問われると思うのですが、そこら辺はいかがですか。

○市長（松本 哲治）

これからの事業所選定に当たって、具体的な協定書といいますか、契約書といいますか、こういった内容で最低限ここまではやってもらいますとか、質の部分の明文化は難しいかもしれませんが、例えば午後の預かり時間はこうですよとか、土曜日は確実にやりますよとか、先生の体制はこういうふうに持ってくださいという、そういった基本的なことは、これから契約書といいますか、協定書というものをしっかりと文書の形で交わして、当然この文書に反するような事態になれば、我々としてもそこはもうしっかりと注意をして、改善を図っていくということを考えています。

○教育委員（池田 博暁）

わかりました。市長、引き続きですが、経営とか運営というのには、信頼が特に大切だと私は思っています。6月30日の新聞報道から少し引用させていただきますと、これはある市の認定保育所での取り組みなのですが、必要な数の保育士を確保できず、4月の通園5日前に、園児10人の入園内定が取り消されるという、そういう取り組みがある市があったそうです。そもそも、そのことの原因は、この保育園の職員全員が退職するという情報が入ったことにあるそうです。ということは、やはりこういう状況が生じるということは、そこにおける経営者、運営する側と職員の間で信頼関係が構築できていない。場合によっては、保護者とも多分そうだろうと。その一番の被害者といいますか、不利益を受けるのは、やはり最終的には園児たちだろうと思います。そういうことで、信頼される運営をするということは非常に重要なことだと思うのですが、もしこのような保育所が、または認定こども園が、要するに公私連携型の場合は、やはり認定を取り消すと、場合によっては公私型に変えていくという、そういう市長の強い意志とか、進めぐあいが非常に大事だと思うのですが、市長、どのようにお考えですか。

○市長（松本 哲治）

恐らく、さまざまなことが考えられて、これから、例えば仲西幼稚園で事業者の選定に入りますけれども、その点の選定の中の一つの要件としては、やはり経営者だったり、経営幹部だけが来て説明することをうのみにするのではなくて、本当にこの経営者が考えている保育、教育のあり方、例えば働いている職員が実際に一丸となって、チームワークとしていいものを提供できているかというのが非常に大切だと思っています。ですから、我々としてはそういったこともしっかり見ていくし、むしろそれが一つのチームとしていい保育、あるいは教育の環境が提供できていなければ、いろんな親御さんからのいろんなクレームや不満等が出てくると思います。だけれども、今回の事業者選定に当たっては、初めてやるのではなくて、既に経験をなさっているところから選ぶことになっていますので、そういった意味では、今も既に存在している組織であれば、評判とかそういったこともきちんと加味した上で、そういった、例えば集団退職があつて、全然もう、我々が想定していた保育が提供できないということにならないように、細心の気を使っていきたいと思いません。

ただ、しっかり選びはしたものの、これは想定仮想での話ですけれども、しっかりと選んではみたものの、

どうしてもどうしても、指導して、注意して、監督して、何度やってもやはり子供たちの保育の環境や状況が改善されないとなった場合は、何といたしますか、資格の停止とか、あるいはまたほかの事業所さんに交代してもらう、あるいは、これは公私連携型が持つ特有の問題であるということになれば、それはまた公立に戻していくということも、今後考えられると思います。むしろ、何度も言うように、今回我々が新しい一歩を踏み出すのは、あくまでも教育や保育の環境を改善するためというのが前提ですから、それがむしろ悪くなっているということが続いて、それが改善される見込みがないとなれば、当然我々も次の決断を迫られるという形になります。

○教育委員（池田 博暁）

市長。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（池田 博暁）

最後ですけれども、市長が先ほどお話しされていた中に、業者に丸投げすることはないと、そういうお話がありました。ただいまの話の中でも、強い指導を実施しながらよりよくしていくという、最低限でも今よりはましになっていくということを狙っていきたいという、そういうお話がありましたので、そこら辺はやはり期待するところであるし、またそうでなければいけないだろうと思っています。ですから、ぜひ市民が安心して、公私連携型となったから何となく公的ではないので、後退するのかという、そういう感ではなくて、むしろさらにそこが今より以上によくなるんだということを、ぜひ進めていただきたいと思っています。ありがとうございました。

○市長（松本 哲治）

まさにおっしゃるような、むしろそういった民営化する、公私連携化することで、質が落ちてはもともとの話になりませんから、我々としては、公立のよさの上に、また民間のよさをプラスしていきたいという考えですから、例えば今回、仲西認定こども園が始まったとしても、仲西の認定こども園だけで、また一つの小さなワールドをつくるのではなくて、引き続き横の、例えば宮城幼稚園なのか、内間幼稚園なのか、浦城幼稚園なのか、近隣の公立のところと意見交換をどんどんしながら「自分たちこんなこともやっているよ」、「これはいいですね」と取り入ってもらって、いい形のを、ただ、ここだけを任せるので、仲西幼稚園という小さな世界で、彼らだけに完結させないで、できるだけ地域に広く広くやっていきたいと思っています。

それから質の担保については、やはり行政がどれだけ指導監督をするかということです。行政にだけいい顔をして、実際中身はぼろぼろということもあり得ます。だからそれが絶対あってはいけないように、一番質をよく知っているのは親御さんといいますか、PTAの方だと思います。ですから、今回始まる仲西幼稚園については、引き続きお子さん、あるいは親御さんからの意見の事情聴取をして、本当にいい形になっているのか。むしろ逆に、やはり懸念したように質が悪くなっているとか、そういったことがないか、あるいは行政にはいい顔をしているけど、帰ったときには、行政がいなくなるときには横暴な態度をとっているとか、そういったことがないかどうかをしっかりと検証しながら、いいものをやっていきたいと思っています。

○教育委員（池田 博暁）

ありがとうございました。

○市長（松本 哲治）

ほかにも何か御質問はありますか。

○教育委員（胡宮 なりえ）

はい、市長。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（胡宮 なりえ）

認定こども園に移行すると、保護者は今よりも保育料が上がってしまうのではないかという声もあります。保護者の皆さんが一番心配している保育料なので、具体的な内容については、いつごろまでに示されるのですか。それから、幼稚園から認定こども園への移行に際して、環境が変わることで、在園児が不安にならないための引き継ぎはとても大事なことだと思います。それは、今後どのように行われていくのか。以上、2点についてお伺いしたいと思います。

○市長（松本 哲治）

まず1点目の料金については、済みません、今の段階であなたは幾らです、あなたは幾らですと細かい数字までは出ていないのですが、今、役所のほうで考えているのは、やはり最初の変化ですから、負担が急激にふえないように、今の段階では次年度も保育料を据え置いていく形をとろうと思っています。やはりまずはやってみてというところですので、それにもかかわらず料金だけが上がるということは、やはり御納得していただくのは難しいと思っておりますので、そういった差額についても、きちんと市のほうで対応を協議して、急激な保育料のアップということはないように考えているところです。

2点目の、先ほどの繰り返しになりますけれども、子供たちにとっての環境が大きく変わらないように、この前の説明会の中で、こういうことも不安の一つになっているんだというのが、やはり新しい民間事業者が来て、完全に独立事業所みたいになってしまっていて、小学校とアンバランスになるのではないかという話もありましたけれども、そうではなくて、仲西小学校、仲西幼稚園、仲西児童センターというあのグループの中に、むしろこちらが入っていただくという感覚ですので、行事、あるいは運営、あるいは制服、そういったところも含めて、みんなで、子供たちに大きな環境の変化が起こらないように、親御さんにとっても、料金的にも大きな変化がないように、我々としては進めていきたいと考えています。

○教育委員（胡宮 なりえ）

わかりました。負担軽減措置、保育料を据え置くのは、とても保護者にとっては安心材料になると思います。特に保育料については、生活に直結しますので、正確な情報が保護者に伝わるように、丁寧な説明と周知徹底を図っていただきたいと思っています。また、引き継ぎについて、園児側に影響がないように、スムーズに移行できる体制を整えて、万全を期していただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○市長（松本 哲治）

はい。料金については、まだ出ていないですね。具体的に何円ですとまでは決定していませんが、基本的には据え置くと、変更なしという方向で、財政課とも打ち合わせをしているということをお伝えして

おきたいと思いますので、少なくとも料金がすごく跳ね上がるのではないかということについては、これは御心配要りませんということで、説明をしてくださって構わないと思います。

2点目の引き継ぎ等についても、当然しっかりと引き継いでいくためにも、早く次の事業所の選定をして、今やっている皆さんとこれから担う方々が、できるだけ多くの時間をオーバーラップさせて引き継ぎができるようにしてまいりたいと思っています。

○教育委員（胡宮 なりえ）

よろしく願いいたします。ありがとうございます。

○市長（松本 哲治）

ほかに何か、御意見。

○教育委員（長田 隆子）

市長、もう1点よろしいでしょうか。

○市長（松本 哲治）

はい。

○教育委員（長田 隆子）

幼稚園の現場からも非常に不安の声が上がっていると聞いております。特に幼稚園の先生方にとりまして、今後の御自分たちの身分の問題、それから待遇面について非常に懸念している部分が多いと思います。そこで、幼稚園の先生方に対する説明も、やはり丁寧に行っていただきたいと思うのですが、そのあたり、市長はどうお考えになりますか。

○市長（松本 哲治）

これも特に仲西で、今やられている先生方、仲西ではなくてもそうですね。今幼稚園で働いている先生方が、これから認定こども園化していくことで、待遇や処遇等が悪くなってしまうのではないかという懸念があるというのは、私のほうも聞いております。これは、しっかりと身分保障がされておりますので、先生方が、制度が今回変わるということにおいて、不利益が生じるということが発生しないように、我々としても検討しているところです。

○教育委員（長田 隆子）

何事もそうですし、先ほど市長からお話もありましたけれども、やはり物事を改革するときとか、あるいは既存のものから新しいものに移行する時期というのは、それにかかわる関係者も非常に精神的に不安を抱えたり、ストレスを感じると思います。保護者はもちろんのことですけれども、特に本市で、これまで一生懸命頑張っていた幼稚園教諭の皆さんの不安とかストレスをなくして、浦添市の認定こども園はすばらしいと評価されるよう我々が頑張るんだという、さらに先生方がそういうモチベーションを上げていけるように、しっかりとその環境をつくっていただきたいと思います。そのことが、今不安を抱えている保護者の安心感にもつながるし、何よりも浦添市の子供たちの健やかな成長につながると思いますので、市長、ぜひよろしく願いいたします。

○市長（松本 哲治）

これは、我々も一生懸命説明しますが、また皆さんの口からもどんどん伝えていただきたいのですが、私たちは今回認定こども園にするということで、今の現状の幼稚園の先生方、あるいは行われている、

提供されている教育、保育等に、そこが悪いから、よくないから変えるんだという意味ではないのです。むしろ新しいものを取り込んでいって、いろんな力、いろんな考え方、いろんなアイデア等も含まれた上で、最終的に質を上げていきたいと考えております。ですから、ぜひ今、これまで働いてきた教員の皆さんに、いろんなところで、ありもしない悪いうわさというのはいろんな形で伝わっていくんです。それが事実であっても、事実でなくてもです。例えば、給料が減るとか、保育料が1万円も2万円も上がるとか、そういう話だけはどんどん尾ひれがついて広がっていくのが常でありますので、我々としてはしっかりと「そういうことはありません」と、むしろ今までの先生方の経験や知識を生かして、あるいは、これから新しく入っていく人たちと一緒に、ともに、新しいものをクリエイティブにつくっていく、そういったところを期待しています。それが認定こども園の意味であるし、公私連携型の認定こども園が目指すべきものだと考えていますので、我々としてはいずれ、少し制度が変わっていく時期においては、多少の混乱とか試行錯誤はあると思うのですが、やはりこれが、例えば3年後、5年後には、あのときに一步勇気を持ってみんなで踏み込んだのが、子供たちにいい結果をもたらしたねと言われるような未来を、必ずつくっていききたいと思います。そのためには、やはり執行部だけではなくて、学校の先生方、教育委員会、そして地域の皆さん、そしてとりわけ保護者の皆さんの協力が必要ですので、やはり小さな違いは乗り越えて、大きな目標に向かってみんなで大団団結していけるような、そういった機運をこの浦添市から高めていっていただきたいと思います。そういった意味では、本日お越しの教育委員の皆さん、あるいは教育委員会の皆さん、あるいは教育関係者の皆さん、全てにおいて大きい責任を持っておりますので、何かわからないこと、何か不安に思っていること、そういうのがありましたら、遠慮なく我々に申し上げていただいて、そこは一緒に乗り越えていくという形をとりたいと思います。キッズファースト宣言をしている浦添市だからこそ、幼稚園を含めた、認定こども園を含めた、子供たちの環境が、やはり浦添はすごいねと言われるようなものを一緒につくっていくように、みんなでこれから努力していききたいと思いますので、今後とも御協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育長（嵩元 盛兼）

一つ。

○市長（松本 哲治）

どうぞ。

○教育長（嵩元 盛兼）

認定こども園を、いいものをつくろうとiroんな議論をして、確かに真剣さが伝わっているので、それはそれで手ごたえがある。問題はつくった後の小学校と、認定こども園の連携、ここが今までは小学校と幼稚園がセットだったので、ある程度強いきずながあったのですが、今回少し薄れるんじゃないか。教育委員会としては、小学校に上がってくる子供たちがいい子に育って上がってもらわないと大変なので、小学校側がもっと積極的に関連するように気をつけたいと思ひますし、逆に行政の側も子供、市と教育委員会、これまで以上に連携しないと、児童園つくったけど、結局支援が薄くならないように気をつけたいと思ひます。そういう意味では、市長の連携の作業をこれからも気をつけて、ぜひ応援してほしいと思ひますし、最終的にはいい人材を確保しないといけないので、人材の確保と財源についてもぜひ市長の強力なリーダーシップを発揮していただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

○市長（松本 哲治）

ありがとうございます。やはりこれからは、今までは、これは教育や保育にかかわることだけではなくて、いろんな、特に行政は非常に縦割りなものが多かったと思うのですが、これからあらゆる問題について、横の連携をどうとっていくかということが必要になってくると思います。特に、子供たちにかかわることは喫緊の課題でもありますので、これまで以上に我々市長部局と教育委員会も連携をとっていかなければならないし、今回また迎える仲西小学校の皆さんも、何か自分たちと違うものが入ってくるよではなくて、むしろ新しい、仲間がふえたということで、非常に、迎えていただいて、逆に入っていく側も、自分たちもこのチームの中にこれから入っていくんだという意識をしっかりと持っていただいて、お互いがいい形での交じり合わせみたいなものから、連携の中から新しいエネルギーが生じて、子供たちにいい風を送っていただきたいと思います。そういった意味では、これから行われる仲西が、浦添の保育の環境を、未来を占うという意味では、一つの試金石になりますので、我々執行部としても、教育委員会の皆さんの力をおかりして、全力で取り組んでまいりたいと思います。むしろ、1年後、3年後に振り返って、自分たちからやってよかったねと、仲西の特に親御さんたちに言ってもらえるように、むしろ、あれをもっともっと広げていこうと、大きく、浦西でも当山でも、神森でも、牧港でも、みんなで広げていきたいねと、機運が起こるぐらいいいものにしていきたいと考えていますので、そのためには皆様の御理解と御協力が必要ですので、しっかりとお願いをしたいというところであります。

よろしいでしょうか。

○教育委員（胡宮 なりえ）

はい、よろしく申し上げます。

○市長（松本 哲治）

それでは、ほかに何か御質問とか気になる、まだ少し不安な点とか、あればよろしく申し上げます。

ほかに御質問等はございませんか。よろしいでしょうか。

（は い）

○市長（松本 哲治）

もし御意見等、御異議等がなければ、この方針のほうで御了承いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（は い）

○市長（松本 哲治）

よろしいですか。

○教育委員（胡宮 なりえ）

ちょっと待ってください。少し確認する時間をいただけますでしょうか。

○市長（松本 哲治）

どうぞ。

今までの質疑応答も踏まえてですけれども、本日の議題であります基本方針（案）についての協議を行いたいと思います。これまでの、教育委員会の皆様に検討していただいて、御指摘、御意見等も踏まえて、今、

お手元にある基本方針（案）の訂正案というのをしておりますので、御確認をお願いしたいと思います。こちらのほう。

この基本方針（案）の中で、少し気になる点とかそういうところがあれば、御指摘をいただきたいと思います。何かございませんか。どうぞ。

○教育委員（長田 隆子）

基本方針の6ページのほうの、窓口の一本化。基本的には、済みません、その前に、担当課のほうには、これまで何度か、我々、勉強会をする中で、方針にこういう文言とか、こういう内容を盛り込んでくださいということは申し上げてきましたので、ある意味では直されておりますけれども、その中で、6ページの4番の窓口の一本化ということがありますね。「就学前の子供の受け入れ施設である保育園及び幼稚園、各認定こども園の入園手続きや相談窓口について、早期の組織一元化と窓口の一本化を図り、市民サービスの向上に努めます。また、組織機構改革の取り組み方針による、子供、子育てに関する統合した組織の構築に取り組めます」とあります。その方針に沿って、いわゆる幼稚園教育に関しては、教育委員会から市長部局のほうに補助執行という形になると思うのですが、その辺の手続等もできるだけ速やかに行って、窓口等、保護者からの窓口はどこなのか、その辺の混乱がないようによろしくをお願いしたいと思います。

○市長（松本 哲治）

ありがとうございます。これはもう根本的に認定こども園という制度が発生するときの、根本的な問題ですけれども、保育園と幼稚園との管轄の部署が違うということですが、我々、今回認定こども園を進めていくに当たっては、既存の幼稚園もそうですけれども、やはりこども園に関して、市役所側でも縦割りといいますか、部署が違うことのないように、できるだけ窓口を一本化して、何かあったときに、あるいは申し込むときに、相談するときに、できるだけ一本化でわかりやすいシンプルな形をとっていきたいと考えています。またそれに合わせて、やはり我々市役所としても、機構改革等も考えておりますので、できるだけその時代に合った、役所の部署の再編等も検討していきたいと考えております。

○教育委員（長田 隆子）

合わせて補助執行をされたとしても、やはり幼稚園教育に関することは、我々教育委員の大きな役割ですので、そのことについての意見等を言えるそういう場所といいますか、環境というのは、ぜひ今後もしっかりとつくっていただきたいと思っています。以上です。

○市長（松本哲治）

はい、ありがとうございます。

○教育委員（池田 博暁）

はい、市長。

○市長（松本哲治）

はい。

○教育委員（池田 博暁）

今先ほど、長田委員から話がありましたけれども、私たちは本当に、この基本方針については、何度も何度も、こども政策室をわずらわせるぐらいかかわってきたと思っております。そういう中で、今の幼稚園には、園長がないんです。園長がないといいますか、専任の園長がないんです。小学校の校長先生が園

長をやっているわけですが、今回、認定こども園になった場合には、校長が園長をやっている状況ではないと思います。質的にも量的にも。そういう意味で、園長の専任制を、要するに園長を配置していくという、このことはすごく私は、この方針に盛り込んでいただいたこと、よかったと思っています。そうすることによって、ますますこの認定こども園が充実していく。そういう公立であれ、公私連携であれ、やっていけるのかなということで、大変よかったと私は思っています。ですから、方針（案）、本当に何度も何度も書きかえていただいて感謝しています。

○市長（松本哲治）

ありがとうございます。今の御指摘の点も、今までは小学校の校長先生がその附属する幼稚園の園長先生を兼任していると。兼任しているので、同じような考え方ができるというメリットもありましたけれども、どうしても目が行き渡らないとか、やはり対象が非常に広範囲になり過ぎるところもあって、なかなかいろんな問題も生じておりましたので、今回、認定こども園にする際には、やはりそこにきちんと独立した園長先生がいて、そのかわり、校長先生と認定こども園長先生がしっかりと連携をとる。これは毎日か何か知りませんが、とにかくきちんと連携をとって、先ほどから言っているように、多くのさまざまな状況の子供たち、あるいはさまざまな家庭から来る子供たちを支えていくには、やはり誰がというのではなくて、もうみんなで、グループで、チームで支えていかなければいけないと思いますので、そういう点では新しい新認定こども園園長さんと、そのほうの小学校の校長先生、教員の皆さんと連携をとって、コミュニケーションを密にやっていただきたいと思います。

○教育委員（池間 生子）

よろしいですか。認定こども園移行にかかわる大きな流れの中で、今まで小一プロブレムという言葉が随分はやりまして、10年ほど前から大きく話題になってきて、幼小連携という言葉も、随分現場で取り組まれてきたのですが、それとあわせる形で幼保連携、そして現在の認定こども園と。先ほど教育長からもあったのですが、幼小中という連携はどこに比重を置くということではなくて、浦添市の場合には、幼保連携、それから、これからは認定こども園ですから、こども園と小学校、それから小学校と中学校という連携のあり方も合わせて考えていく必要があるのかなと、分断をせずに合わせて考えていくということも、一環として考えていただけたらなということで、これはお願いということで、よろしく願いいたします。

○市長（松本哲治）

特に、小一プロブレムでは、本土のほうでもよく言われていることですが、少なくとも沖縄においては、幼稚園が同じ学校の敷地内にあるということで、本土ほど小一プロブレムというのは顕著ではないのですが、そこも、あくまでも今回認定こども園をすることで、別の場所にこども園が移ってしまうわけではありませぬので、あくまでも同じ敷地内にあるところですから、そこはもうしっかり小学校と一緒に連携をしていてもらいたいと思います。むしろ、保育所のほうで5歳まで過ごされる方もいらっしゃると思いますので、むしろこの認定こども園で保育園のよさを学びながら、かつ、幼小連携をしていく、子供たちがスムーズにそのまま幼稚園、認定こども園に通って、入学するときには、違う校舎に行くんだよというぐらい、そして、お兄ちゃん、お姉ちゃんとの連携とか、そういったものやっつけていきたいと思っています。幼保連携、幼小連携含めて、これからの時代は、どれだけ多くの人たちが連携をとって、チームワークを形成できるかということに尽きると思いますので、そこはみんな力で力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

○教育委員（池間 生子）

よろしく申し上げます。

○市長（松本哲治）

むしろそれができるような、当然それもやって当たり前だと理解している実施主体を選考していくということになると思います。

○教育委員（胡宮 なりえ）

市長、よろしいですか。

○市長（松本哲治）

はい。

○教育委員（胡宮 なりえ）

本日提案いただいた基本方針（案）は、当初の提案の内容と比べて、私たちの意見も取り入れてくださり、そして検討の上、修正もしていただいて、わかりやすく、納得できる内容になっていると思います。基本方針にもありますように、子供たちの健やかな成長のために、そして保護者が安心して子育てができるように、認定こども園の整備に責任を持って取り組んでいただきたいと思います。新たな子育て支援制度である認定こども園の導入に期待する声に応えるためにも、これを契機として、行政だけではなくて、市長がおっしゃった本市全体でキッズファーストを実践し、子育て世代を支える意気込みを発信できたらいいなと心から期待しています。基本方針の策定、お疲れさまでした。どうもありがとうございました。

○市長（松本 哲治）

はい。基本方針ですから、ころころ毎年変えるということはないと思います。しかし、やはりこれから大きく時代が変わっていく中で、やはり必要があれば、また皆さんの御意見も踏まえながら、新しい項目を追加していく、あるいは不必要となったものを削除していく、そういったこともどんどんやっていきたいと思っています。今回、仲西が1校先行で始まるというのも、やはりゆっくりと計画の中でじっくりとやっていくことも考えましたけれども、子供たちを取り巻く環境が今大きく激変している中で、やはり我々としては、いろんな試行錯誤をこれから行わなければなりませんので、まずは1校、次年度から進めるということで、恐らくそれも何の問題もなくすすいとはいかないと思います。でもそこで出てくるであろう課題を、丁寧に対応することで、今後にも活用していきたいと考えております。繰り返しになりますけれども、基本方針に沿って、改正、あるいは実際に認定こども園の運営等についても、やはり多くの皆さんの御理解と御協力がなければ、成功できないと思っておりますので、教育委員をはじめ、あるいは関係者各位にも、忌憚なき御意見、そして御理解と御協力をいただきながら、一丸となって浦添の子供たちの環境の改善に全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、今後とも御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○教育委員（胡宮 なりえ）

よろしく申し上げます。

○市長（松本哲治）

よろしいでしょうか。その他何か、御異議、御意見等が、大丈夫ですか。

○教育委員（長田 隆子）

いいですか。

○市長（松本哲治）

はい、どうぞ。

○教育委員（長田 隆子）

今回、仲西幼稚園の移行に関して、何度も申し上げますけれども、急であったという市民の意見がございますね。その反省を踏まえて、ぜひ今後の計画については、本当に早目早目の住民への説明等を行っていただければいいかと思います。そうすることで、少しでも市民の不安を取り除いてあげることができれば、この事業の遂行もスムーズに行くかと考えておりますので、よろしくお願いします。

○市長（松本哲治）

今回、我々が進めていこうという方針（案）について、やはり我々も、課題や問題点が皆無だとは捉えておりません。やはりこういうふうにもう少しやればよかったかなという点は多々あります。ですけれども、総合的な判断の中で今回進めようという判断になっています。ですから、今後はやはりしっかりと先を見越して、しっかりと計画を立てて、しっかりと説明をして御理解を得た上で進んでいくというのが、これが基本でありますので、今回、新たに生じた課題等については、我々執行部、あるいは教育委員会、関係者各位、またそこを反省してレビューしながら、フィードバックもしていきたいと思っておりますので、そのときにはまた御意見等をよろしくお願いいたします。特に、仲西関係者の非常に不安を持っていらっしゃる方には、一緒に不安を払拭して、前向きに頑張っていこうという形で、今後とも、説明会等含めて行っていきたいと思っております。御協力のほどよろしくお願いいたします。

○教育委員（長田 隆子）

引き続きよろしくお願いいたします。

○市長（松本哲治）

はい。よろしいでしょうか。

（は い）

○市長（松本哲治）

それでは、御異議がなければ御了承いただきますようお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

（は い）

○市長（松本哲治）

ありがとうございます。先ほどからの繰り返しになりますが、我々浦添市が目指す新たなステージへの第一歩であります。必ずこれを成功させて、子供たちの教育、保育の環境のプラスにつなげていきたいと思っております。そのためには、我々関係者だけではなくて、市民の皆さんの御理解と御協力も必要だと思っておりますので、広くみんなで力を合わせて、御協力を賜りながら進めていきたいと思っておりますので、今後とも御理解、御協力、よろしくお願いいたします。

それでは、これで第2回総合教育会議を閉会といたします。本日は、どうもありがとうございました。